

崖

響

～燃えろ、熱くなれ、足高健児！～

第1号 2020/7/30発行
栃木県立足利高等学校
進路指導部

今回は各学年主任の先生から生徒のみなさんへの言葉と、高校時代の山根先生の数学について掲載します。

第3学年 学年主任 鈴木裕之 先生より

一言では語れないほど大変な1学期、皆さんお疲れ様でした。全世界的に不安が渦巻く中、皆さんとご家族が健康で、普通に学校生活を送れていることを喜びましょう。そして、短い夏休みから2学期に向けて、今まで以上に真剣に受験と向き合ひましょう。まずは、三者面談や模試の結果を通して、自分の学力と希望進路との「差」がどれくらいか直視し、得意を伸ばす・苦手をつぶすを徹底してください。目安として1日12時間の学習が必要です。もう一つ、希望進路の受験方法・内容の確認を行ってください。

新しい情報が続々と大学HPで発表されています。これから変更される場合もあるでしょう。頻繁にチェックをしてください。短い夏休みですが、短いからこそ何かを徹底できるとも言えます。1年後の夏、東京オリンピックを楽しく見られるように、この夏、「学習」に徹しよう。

第2学年 学年主任 戸倉川大介 先生より

2学年の皆さん、1学期が間もなく終わろうとしています。今年はコロナ禍の影響で学校再開が6月、終業式が7月末、始業式がお盆明けとなってしまいました。体力的にも精神的にも非常に負担が大きかったと思います。短い夏休みではありますが、これをきっかけに自分のコンディションを上手に整えてください。

オープンキャンパスはWebが中心ですが、ぜひ積極的に参加してください。大学名や学部名・学科名だけで選択するのではなく、何を学ぶかを直に見ることが大切です。そして、目標を見つけたら、少しでも早く受験勉強を意識しましょう。学年掲示板にも載せましたが、2年夏休みからの取り組みが成績向上の一つのポイントです。

第1学年 学年主任 山本敦史 先生より

4月はオリエンテーション、入学式、始業式の僅か三日で休校になってしまいました。そして、その後の長い休校期間を過ごすのは容易ではなかったと思います。予想もしなかったコロナウイルスのせいで、生活にも不便なことが多く、大変な時期でしたね。しかし、5月の分散登校を経て6月から学校が再開できました。皆さんがどんな感じで登校してくるか、不安がありましたが、元気な声と明るい表情が見えて、我々も安心できました。生徒がいての学校です。やはり、生徒の皆さんが登校して生活していなければ、学校ではないと感じます。

1学期はどうでしたか。最初は知らない人ばかりで不安だったこともあったと思いますが、今では話し相手や友人もできてきたと思います。クラスは、様々な考え方や性格の生徒がいる集団です。相手の考えや立場を尊重して欲しいと思います。また、仲間の良い考え方や物事のやり方を吸収しながら取り組めると良いと思います。クラスだけではなく、部活動の中でも同じことがいえると思います。先輩からも、どんどん良い面を取り入れてください。

多くの行事が中止になり、7月に入ると暑い日や雨天が続きました。また、ずっとマスクをつけての学校生活は不便なことも多かったと思いますが、期末試験も終わり、終業式を迎え、1学期も終了します。夏休みは短くなっていますが、体をしっかり休めて下さい。

2学期は、暑さもおさまり、過ごしやすくなるでしょう。計画的、規則正しい生活のもと、学習時間を3～4時間は確保してください。1日1日を大切に、何事も継続することが大事です。小さなことと思えることにも真剣に取り組んでいくことが、いずれ大きな成果に繋がっていくはずで。皆さんの健闘を祈ります。共に頑張りましょう。

山根幸治 先生(英語)の高校時代の数学

私が高校生の頃、大学入試で求められたのはとにかく計算の「スピード」と「正確性」でした。そのうち、私が優先したのは前者でした。正確に解けても時間内に解けなければ意味がないと考えたからです。そこで、日頃学習に取り組む際には、とにかく時間にこだわりました。時間を意識するため、ストップウォッチを片手に勉強に取り組みました。

スピードを意識すると、計算ミスが起こりやすいことは想像に難くないでしょう。「正確性」の向上を目指して私が行ったのは、ミスの分析でした。数学に限らず、勉強にミスはつきものです。肝心なのは、同じミスを繰り返さないことです。問題の分野に応じて出やすいミスを振り返ることにより、ミスを減らし、得点を重ねることができました。

以上の通り勉強していたのですが、最終的に最も有益だと感じたのは、友人と同じ問題を競争したことでした。幸い、同じクラスに難関大を目指す友人がいたため、互いに競い合うことができました。この足高においても、クラスメイトと高いレベルで切磋琢磨し、お互いの知力を高め合うことを通して、希望する大学への入学を勝ち取ってくれることを期待しています。